

2009年8月27日 ぐんま経済新聞

群馬大でやさしい科学技術セミナー

財団法人国際科学技術財団

高校生ら16人が有機化学学ぶ



染色実験を通じて有機化学を学んだ

科学技術の普及啓発を行っている財団法人国際科学技術財団(伊藤正男会長)は21日、群馬大学大学院工学研究科(桐生市天神町)で「やさしい科学技術セミナー」を

実施した。同大学院応用化学・生物化学専攻の村岡貴子助教が講師となり、参加した高校生ら16人に講義と実験を通じて環境に配慮したものづくりの大切さを説いた。

同セミナーは、同財団が全国で開催しているもので、今回が194回目。県内での実施は昨年引き続き2回目となった。今回は「環境にやさしいものづくり」がテーマ。

有機合成化学の研究を手掛ける村岡助教が、ごみを出さず資源を有効活用するために必要な有機化学と触媒反応を、桐生の地場産業である織物の染色技術を例に挙げて解説した。

参加者はまず、県繊維工業試験場(桐生市相生町)を見学。工学研究科に場所を移してのセミナーでは、村岡助教が「今の生活水準を維持したまま資源を有効活用するには、環境に負荷を掛けないものづくりをする必要がある」と環境にやさしいものづくりの必要性を説明。続いて有機化学と触媒反応の解説や、染色との関係を紹介した。実験では、オレンジ色のアゾ系染料(オレンジII)を使って、絹やナイロン、ポリエステルといった6種類の布を染色。布が染まるまでの時間を利用して、染料と布の組成式を見ながら染まり具合を予想するなどして化学実験を楽しんだ。

村岡助教は「好きな教科を見つけて将来の夢を考えて下さい。後は皆さんの努力次第です」と参加学生らに語った。



JAPAN PRIZE

Japan Pirze